

Devon IT Echo
Management
Console
Dell Edition
管理ガイド



メモ、注意、警告



メモ: 「メモ」は、お使いのコンピュータをよりよくご利用いただくために役立つ重要情報です。



注意: 「注意」は、手順に従わなかった場合にハードウェアの損傷やデータの損失を引き起こす可能性を示します。



警告: 「警告」は、器物の損傷や身体の負傷、死亡の危険性を示します。

この文書の情報は、予告なしに変更されることがあります。

© 2012 Dell Inc. All rights reserved.

Dell Inc.の書面による許可なしにこれらの文書を複製することは形態にかかわらず固く禁じられています。

この文書で使われている商標: Dell™、DELL のロゴ、OptiPlex™は Dell Inc.の商標です。Devon IT、Devon IT のロゴ、Devon IT Echo™ Thin Client Management Software、VDI Blaster™は米国内外における Devon IT Inc.の登録商標です。Microsoft®、Windows®、Windows Server®、MS-DOS®、Windows Vista®は米国および/またはその他の諸国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Citrix®、Xen®、XenServer™、XenDesktop™、ICA™、XenMotion®は米国および/またはその他の諸国における Citrix Systems, Inc.の登録商標または商標です。VMware®、VMware View™、View Client™、Virtual SMP®、vMotion®、vCenter®、vSphere®は米国またはその他の諸国における VMware, Inc.の登録商標または商標です。

本書では、その他の商標や商標名が、それら商標や名称の所有権を持つ法人またはその製品を参照するために使用される場合があります。Dell Inc.は、自社が所有権を有するもの以外の商標や商標名に対するいかなる所有権も主張しません。

目次

仮想アプライアンスのインストールとセットアップ	6
vSphere、VMware Server または Player のダウンロードとインストール.....	6
Echo ソフトウェアのダウンロード.....	6
vSphere Client 上で仮想マシンをインストール.....	7
VMware 上で仮想マシンをインストール	10
Echo のパスワードと時間帯の設定.....	12
Echo のネットワーク設定.....	14
メインメニュー	16
最後の設定手順	19
詳細設定のためのその他のインストール手順.....	22
接続問題のトラブルシューティング	24
Echo の基本	25

用語	25
Echo ウェブベースのインターフェースへのアクセス	26
Echo 管理画面	26
端末管理	31
Echo エージェントのアップデート	31
カスタムアイコン	33
Echo クローニングの概要	36
接続のクローニング	37
端末設定のクローニング	40
プロフィール	43
ディスクイメージのクローニング	46
既成のディスクイメージ	50
メンテナンス	53
サーバのバックアップ	53
サーバのリストア	54
アプライアンスのアップグレード	56

サポートが必要なときは	57
Dell へのお問い合わせ	57

仮想アプライアンスのインストールとセットアップ



メモ: 現時点でカスタムアイコンが使えるのは DeTOS (Devon IT 端末オペレーティングシステム) 端末のみで、Windows ベースの端末では使用できません。

この管理ガイドでは、Devon IT Echo Management Console Dell Edition のインストールとセットアップ、実行手順を説明します。必要なコンポーネントは次の通りです。

- 1 シンククライアント 1 台以上
- 2 Echo 対応のシンククライアント
- 3 VMware Server、VMware Player、または VMware vSphere を実行するシステム
- 4 DNS サーバと DHCP サーバを実行するシステム

vSphere、VMware Server または Player のダウンロードとインストール

専用システムに vSphere Client、VMware Server、VMware Player のいずれかをダウンロードし、インストールします。VMware のインストール方法については、vmware.com をご覧ください。

Echo ソフトウェアのダウンロード

最新の Devon IT Echo Management Console Dell Edition ソフトウェアをダウンロードして Dell OptiPlex FX130 および FX170 システムを管理するには、以下の手順に従います。

1. ウェブブラウザで <http://support.dell.com/support/downloads/>までナビゲートします。

2. **[Choose from a list of all Dell products]** を選択します。
3. **[Desktops]**→**[Optiplex]**→**[FX170]**→**[Confirm]**の順にクリックします。
4. **[Operating System]**で、**[DeTOS]**または**[Windows Embedded]**のいずれかを選びます。
5. **[Applications]**から、**[Echo Management Console Dell Edition]**をダウンロードします。

vSphere Client 上で仮想マシンをインストール

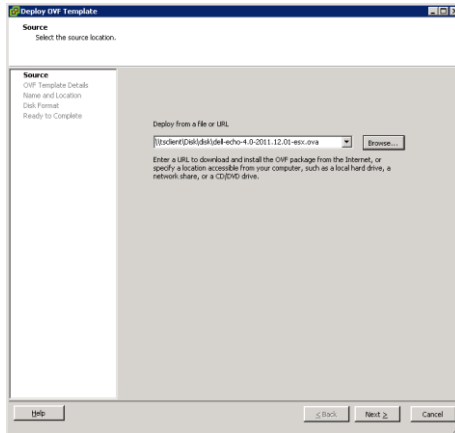
vSphere で Echo 仮想マシンを起動するには：

- 1 VMWare vSphere Client を起動します。
- 2 ESX サーバの IP アドレスとログイン認証情報を入力し、**[Login]**をクリックします。



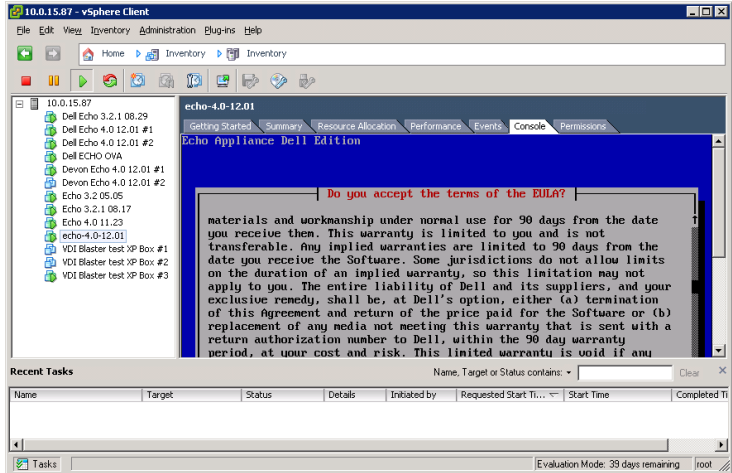
- 3 **[Inventory]**を選択して ESX サーバのインベントリを表示します。
- 4 **[File]**→**[Deploy OVF Template...]**の順にクリックします。

- 5 **[Browse]**をクリックして Dell のウェブサイトからダウンロードした OVA までナビゲートし、**[Next]**をクリックします。



- 6 **[OVF Template Details]**画面で**[Next]**を選択します。
- 7 **[Name and Location]**画面で、必要に応じてテンプレート名を変更します。その後、**[Next]**をクリックします。
- 8 **[Disk Format]**画面でご利用のアプリケーション用に使うフォーマットを選択し、**[Next]**をクリックします。
- 9 **[Ready to Complete]**画面でオプションを見直し、設定が正しいことを確認します。インストール後、マシンを起動させるには**[Power on after deployment]**のボックスを選択します。**[Finish]**をクリックします。
- 10 テンプレートをインストール後、それを画面左側にあるインベントリリストから選択します。**[Power on after deployment]**のオプションを選択しなかった場合は、インベントリリストの上にある**[Play]**ボタンをクリックする必要があります。

- 11 Echo Appliance Dell Edition の最初のセットアップを継続するには vSphere Client のメイン画面で[Console]タブを選択します。



VMware 上で仮想マシンをインストール

いずれかの VMware Server バージョン上で仮想マシンを設定するには、まず .ova ファイルを VMware Server で認識可能な .vmx ファイルに変換する必要があります。VMware ファイル・コンバーターは <http://www.vmware.com/products/converter> からダウンロードできます。 .ova ファイルを .vmx 形式に変換した後は、それぞれの VMware Server 手順に従ってください。

VMware Server 2.0

VMware Server バージョン2.0: するには設定マシンを仮想で上

- 1 [VMware インフラストラクチャアクセスページ] を開きます。
- 2 ツールバーから [仮想マシン] → [仮想マシンをインベントリに追加する] の順に選択します。
- 3 Expand the [インベントリ] ノードを拡大表示し、Echo フォルダまでナビゲートして、「echo-x.xx.vmx」と呼ばれるファイルをダブルクリックします。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [VMware インフラストラクチャウェブアクセス] ページの [インベントリ] パネルから [echo-x.xx] を選択します。
- 6 ホストシステムで使用可能なメモリ量によっては、メモリの割り当てをデフォルト値の 512MB から減らす必要があるかもしれません。
- 7 仮想マシンの電源を入れます。

VMware Server 1.0.x

VMware Server バージョン1.0.0~1.0.8: するには設定マシンを仮想で上

- 1 [既存の仮想マシンを開く] を選択します。
- 2 [ファイル] → [開く] の順にクリックし、「echo-x.xx.vmx」までナビゲートします。仮想マシンのデフォルト名は「echo-x.xx」です。これが [インベントリ] 列に追加されます。

- 3 VMware Server のバージョンによっては、仮想アプライアンスに割り当てるメモリ量を調整するのに、**【割当メモリを調整する】**または**【仮想マシン設定の編集】**オプションを選択する必要があります。
- 4 Echo 設定が完了したら、緑色の三角アイコンの隣の**【電源を入れる】**をクリックします。

VMware Player

VMware Playerで上Echo: するには開始マシンを仮想

- 1 システムで **VMware Player** を起動し、**【Open a Virtual Machine】** をクリックします。
- 2 ドロップダウンメニューから **【All Image Files】** を選択します。
- 3 Echo フォルダ内にある **.ova** ファイルを開きます。 **【Import】** を選択します。
- 4 仮想アプライアンスが直ちに起動し始めます。

Echo のパスワードと時間帯の設定

- 1 仮想マシンをオンにします。
- 2 起動プロセス完了後、**【パスワード設定】** ウィンドウが開きます。
- 3 **bwadmin** アカウントの新しいパスワードを入力します。Echo にログインするにはこのパスワードが必要です。



メモ: 新しいパスワードを入力時、最低文字数の制限はありません。また、パスワードでは大文字と小文字を区別します。しかし、管理者は、大文字、小文字、英数字を組み合わせて最低でも 6 文字のパスワードを作成することを推奨します。

- 4 パスワード入力後、矢印キーを使って **【OK】** ボタンまでナビゲートし、**Enter** キーを押して続行します。再びパスワードを入力するよう指示されます。再び **【OK】** ボタンをクリックします。



- 5 **地理地域** のメニューから Echo 仮想アプライアンスの時間帯を設定します。リストから該当する地域を選んで、**Enter** キーを押します。

- 6 **時間帯**のメニューに、都市のリストが表示されます。ご自分の時間帯にある都市を選び、**Enter** キーを押します。



Echo のネットワーク設定

DHCP 構成 (デフォルト)

次に [ネットワーク] 設定画面が表示されます。デフォルト設定では、Echo はご使用のネットワークの DHCP から IP アドレスを自動取得しようとしています。つまり、マシンを再起動して Echo 仮想アプリケーションを再起動するたびに IP アドレスが自動的に割り当てられるということです。DHCP が Echo に IP アドレスを正しく割り当てると、4 つ目のオプションとして [eth0 inet dhcp <ip-address> <subnet mask>の変更] が表示されます。それ以外の場合、そのラインには、[eth0 inet dhcp の変更] のみが表示されるので、アプライアンスにスタティック IP アドレスを割り当てる必要があります。

```
Networking
No changes
DNS view/edit resolv.conf
View/Edit /etc/network/interfaces
Change eth0 inet dhcp 10.0.5.138 255.255.255.0
```

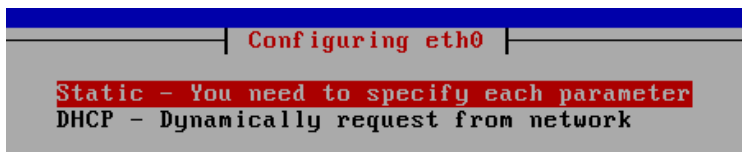
[eth0 の変更] オプションをクリックすると、Echo の IP 設定を変更できます。変更が不要で、これ以上設定する必要がなければ、[変更なし] を選択し、Enter キーを押して続行します。

スタティック IP 構成

ご使用の LAN で DHCP が使えない場合は、Echo サーバ用にスタティック IP アドレスを手動設定する必要があります。

- 1 [ネットワーク] メニューから [eth0...を変更] オプションを選択します。

- 2 [eth0 構成...] という次の画面で、[スタティック] オプションを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



- 3 Echo のスタティック IP として使う IP アドレスを入力し、[OK] をクリックします。
- 4 サブネットマスクを入力し、[OK] をクリックします。
- 5 ゲートウェイ IP アドレスを入力し、[OK] をクリックします。
- 6 新しいスタティック設定を確認します。新しい設定を適用するには [はい] を、変更を取り消すには [いいえ] を選択します。
- 7 [はい] を選択後、ネットワークインターフェースが再起動して、Echo の [メインメニュー] が表示されます。

スタティック IP 設定のための DNS 編集

スタティック

、は場合する使用アドレスをEcho」サーバの**resolv.conf**、このファイルには。があります必要する編集ファイルを「DNSサーバへのIP。まれます含パスが検索ドメイン、アドレスと

```
GNU nano 2.0.7 File: /etc/resolv.conf
domain devonit.com
search devonit.com
nameserver 10.0.2.8
nameserver 10.0.1.6
nameserver 10.0.1.7

```

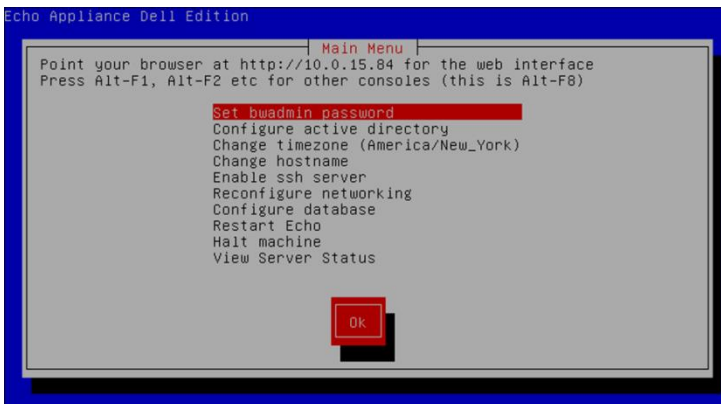
Read 5 lines

Get Help WriteOut Read File Prev Page Cut Text Cur Pos
Exit Justify Where Is Next Page UnCut Text To Spell

- 1 メインメニューから、[ネットワークの再構成] を選択します。
- 2 [DNS view/edit resolv.conf] を選択します。
- 3 エディタを使って、ファイルに少なくとも `search <domain>` と `nameserver <ip address>` の 2 行が含まれていることを確認します。
ここで `<domain>` はドメイン名、`<ip address>` は DNS サーバの IP アドレスです。
- 4 追加したい DNS サーバに対して必要な `nameserver <ip address>` 行を追加します。
- 5 コントロール+X キーを押してから Y キーを押して変更を保存し、次に Enter キーを押して、ファイルを保存します。
- 6 [メインメニュー] に戻るには [変更なし] を選択します。

メインメニュー

後その、えると終プロセスを設定の最初いったんEcho となります地点がスタート画面 [メインメニュー]、うには行を変更の



メインメニューオプション: 参照チャート

表 1-1. Echo のメインメニュー

メインメニューの項目	説明
bwadmin パスワードの設定	bwadmin アカウントの新しいパスワードを入力します。
Active Directory の設定	ユーザが LDAP クエリを介した Active Directory 認証を使ってウェブのフロントエンドにログインできるようにします。
時間帯の変更	サーバの時間帯を変更します。
ホスト名の変更	Echo サーバのホスト名を変更します。デフォルトのホスト名は <code>ws-broker</code> です。
SSH サーバーの有効化/無効化	SSH サーバの有効と無効を切り替えます。デフォルト設定では SSH は無効となっています。別のマシンから Echo サーバのコマンド行にアクセスすることを計画している場合は、 SSH を有効にするとよいでしょう。
ネットワーキングの再構成	。います行を以下 <ul style="list-style-type: none">• スタティックなネットワーク変更の設定• DHCP有効化の/無効化• ローカルのDNS) ファイル re

	<p>solv.conf 編集をマニュアルで（</p> <ul style="list-style-type: none"> • 」/etc/network/interfaces 編ファイルをマニュアルで「 集
データベースの構成	<p>デフォルトのデータベースはSQLite かわりに。ですMS- SQL 設データベースを外部、うように使を 。することもできます定</p>
Echo の再起動	<p>Echo serverします再起動を</p>
マシンを停止	<p>Echo をシャットダウンし全体マシン仮想 ます</p>
サーバのステータスを表示	<p>現サーバとウェブインターフェースの 。します表示のステータスを在</p>

最後の設定手順

DNS の設定

DNS サーバで、

Echo 仮想マシンの IP アドレスを示す **ws-**

broker.<mydomain*>.<mytld*> のエントリを作成します。これにより、端末は Echo サーバを自動検出できるようになります。

ここで、**<mydomain>** はドメイン名で、**<mytld>** はトップレベルのドメインです。例:

- ws-broker.myXyzConsulting.com
- ws-broker.HiTechSolutions.net
- ws-broker.development.org

DNS を使用しない場合の別の設定方法

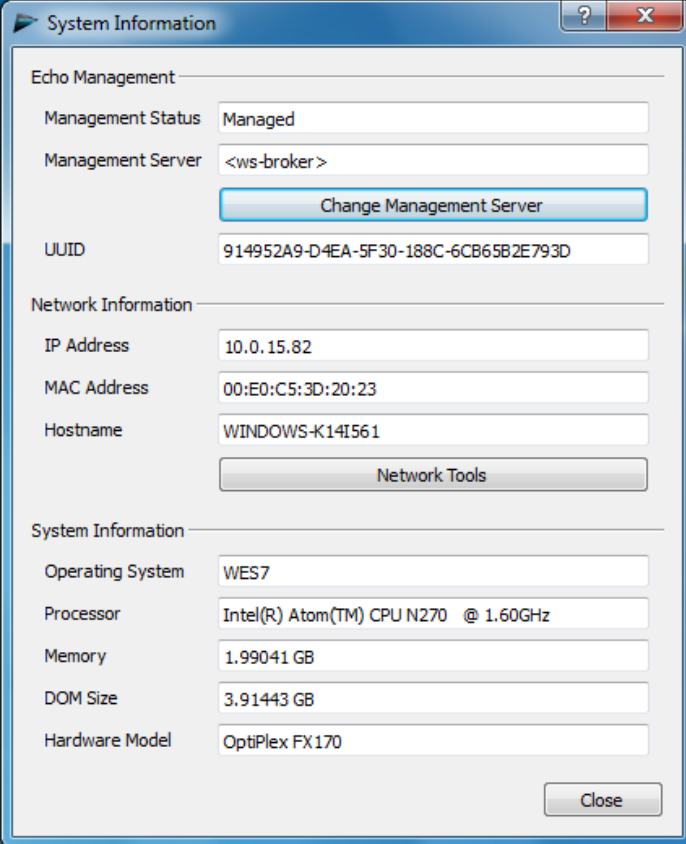
DNS

ってシンクライアント従に手順の以下、場合サーバにアクセスできないへサーバの IP。できます追加アドレスを

Echo。います従に手順の次シンクライアントで各する管理って使を

- 1 [システムトレイ] の [Echo エージェント] をダブルクリックします。
- 2 [システム情報] ウィンドウで、 [管理サーバを変更] をクリックします。

- 3 ドメイン名 ws-broker のかわりに IP アドレスを入力し、**[OK]** をクリックします。



The screenshot shows a 'System Information' dialog box with the following fields and values:

Section	Field	Value
Echo Management	Management Status	Managed
	Management Server	<ws-broker>
	UUID	914952A9-D4EA-5F30-188C-6CB65B2E793D
Network Information	IP Address	10.0.15.82
	MAC Address	00:E0:C5:3D:20:23
	Hostname	WINDOWS-K14I561
	Network Tools	Network Tools
System Information	Operating System	WES7
	Processor	Intel(R) Atom(TM) CPU N270 @ 1.60GHz
	Memory	1.99041 GB
	DOM Size	3.91443 GB
	Hardware Model	OptiPlex FX170

A 'Close' button is located at the bottom right of the dialog box.

ファイアウォールのポート

表 1-2. Echo が機能するため、オープンすべきポート

ポート	プロトコル	コンポーネント	目的
80	TCP	Echo サーバ	HTTP - Echo ウェブ UI のための標準ウェブポート
443	TCP	Echo サーバ	HTTPS - HTTP プロトコルによる、セキュアな (SSL) コミュニケーション
50000	TCP	Echo サーバ、ホスト、端末	SOAP が使用。このポートは、Echo 環境内にあるすべてのデバイスでオープンにする必要があります。

接続のチェック

ウェブブラウザのアドレスバーに、「http://(お使いの Echo サーバのホスト名または IP アドレス)」と入力します。ログインページにアクセスするには、いくつかのセキュリティ警告を通過する必要があるかもしれません。インストールと設定に成功すると、**[Echo ログイン]** 画面が表示されます。



詳細設定のためのその他のインストール手順



：メモ

の次2において同一環境、つのセクションはEchoの利用ご。みください読のみお場合する複数台実装アプライアンスを管理仮想マシン第、は場合しない該当に環境2」の章Echo。みください進にお「基本の

MS-SQL データベース使用のための Devon IT Echo Management Console Dell Edition 設定

Echo、はデフォルトでEchoの内部マシン仮想1つのSQLite。されています構成するように使用データベースをEcho、はまたMS-SQLの複数それは。できます使用データベースもEcho活を機能の高可用性、例えば。です必要に場合される使用マシンが仮想の次は場合する実装アーキテクチャを するためにエンタープライズ用。があります必要う従に手順

- 1 easysoft.com/member/login.phtml で Easysoft ODBC ドライバの認証コード用の登録を行います。



メモ： Easysoft は、Devon IT または Dell が管理するわけではないのでご注意ください。Easysoft 製品のご使用に関する実装とトラブルシューティングは管理者の責任において行ってください。

- 2 Echo 仮想マシンの [メインメニュー] から [データベースの構成] を選択します。
- 3 [選択] を選択し、[データベース構成] メニューから別のデータベースを選択して構成します。
- 4 [データベースの選択] メニューから [mssql] を選択します。
- 5 [Easysoft ODBC のインストール] メニューから [Easysoft ODBC ドライバのインストール] を選択します。これでドライバをインストールするためのスクリプトが起動します。
- 6 Enter キーを押してエンドユーザライセンス契約をお読みください。ライセンスを承諾するには、最初のプロンプトで「Yes」とタイプします。

- 7 [ライセンス申請の実行] が表示されるまで Enter キーを押し続けます。メニューからオプション [2] を選択します。
- 8 お名前、会社名、メールアドレスをそれぞれのプロンプトに入力してください。その他の質問事項欄は空白のままで結構です。
- 9 「ライセンス取得方法をお選びください」と表示されたらオプション [1] を選択します。
- 10 次のメニューで [0] [終了] を選択します。
- 11 その後それぞれのプロンプトで Enter キーを押してデフォルト設定を使用します。
- 12 [mssql/ODBC の構成] メニューに戻り、データベース名、IP アドレス、ポート、ユーザ名を、ご使用の MS-SQL データベース用に設定します。
- 13 終了後、[現在の設定を維持する] を選択して設定を受け入れ、[メインメニュー] に戻ります。
- 14 [メインメニュー] から [Echo の再起動] を選択してデータベース接続を起動します。

MySQL データベース使用のための Devon IT Echo Management Console Dell Edition 設定

MySQL データベースへの接続を選択できます。MySQL データベース用に管理サーバを構成するには：

- 1 [メインメニュー] から [データベースの構成] を選択します。
- 2 [別のデータベースを選択して構成する] [MySQL] の順に選択します。
- 3 MySQL サーバに関連する IP アドレス、ポート、ユーザ名、パスワード、データベースのフィールドに適切な値を入力します。
- 4 [現在の設定を維持する] を選択して [OK] をクリックします。Enter キーを押します。
- 5 [メインメニュー] から [Echo の再起動] を選択してデータベース接続を起動します。

接続問題のトラブルシューティング

ご使用の Echo アプライアンスがネットワークに接続されており、アプライアンス間でデータパケットの往復があることを確認してください。Alt キーを押して右向き矢印キーを押すことで、別の仮想端末に切り替えるか、アプライアンス内で試すことができます。端末のプロンプトに、`ws-broker` ログインが表示されます: `_`

Echo 管理サーバの最初の設定時に設定した `bwadmin` のユーザ名とパスワードを使ってログインできます。ご利用のアプライアンスが、ネットワーク上のマシンを参照できるかどうか確認するため、リモートマシンに Ping 送信してネットワーク接続をテストしてください。また、シンクライアントから Echo サーバに Ping 送信して、デバイスがサーバを参照できることを確認します。

サーバとの Ping のやりとりに失敗する場合は、ネットワーク設定をもう一度確認してから、ネットワーク上のポート `50000` がオープンであることを確認してください。

Echo の基本

用語

。しておいてください理解を用語の次う使で文書この

- **端末**—ユーザの前にあるデバイスで、画面、キーボード、マウスが付いています。
- **セッション**—ディスプレイおよび **USB** コンポーネントが接続された、シンクライアントとホストとの間のネットワーク接続です。
- **CMS**—シンクライアントとホストとの接続を管理する接続管理サーバ（**CMS**）です。**Echo** シン管理仮想アプライアンスは **CMS** です。
- **クローニング**—1つの端末からプロファイルや設定、イメージを複製してそれを他の端末に適用できるようにするプロセスです。

Echo ウェブベースのインターフェースへのアクセス

- 1 ウェブブラウザのアドレスバーに、「http://(お使いの Echo サーバのホスト名または IP アドレス)」と入力し、**Enter** キーを押します。



メモ: サーバに接続時、セキュリティ証明書の警告が表示される場合があります。続行するには **[はい]** をクリックします。

- 2 ユーザ名として「bwadmin」とタイプし、インストール時に設定した Echo のパスワードを入力します。**Enter** キーを押します。
Echo の設定に問題がなく、DNS が正しく設定されていれば、**Echo 管理画面**が表示されます。

Echo 管理画面

Echo 管理画面は3つのセクションに分かれます。左側には、タブの付いたナビゲーションバーが表示されます。画面中央部分は、選択したタブに応じてさまざまなインベントリテーブルが表示されます。画面右側はテーブル内の選択項目に関する詳細情報を表示する詳細ページです。

端末テーブル

端末テーブルでは、Echo ソフトウェアが管理する個々の端末が表示されます。ここで、各端末の**名前**、**位置**、**説明**その他の詳細情報を参照できます。

Dell 端末とデスクトップアクセスデバイスには、Echo に管理されたサーバと通信するための Echo エージェントというサービスが搭載されています。Echo エージェントは Echo サーバに、「ハートビート」と呼ばれる XML ベースのメッセージ（デフォルト設定では 60 秒ごとに発生）を送り続けることにより、その存在を知らせます。エージェントのハートビートがサーバに届くと、デバイスの情報が **[端末]** テーブルに表示されます。

端末

端末を追加
 選択項目を削除

10 個のエントリを表示 検索:

名前	説明	位置	IP アドレス	前回のコンタクト
SIDESWAPE			10.0.15.122	2011-11-29 12:44:23
00abbcd188d616108b56e5c7233e085			10.0.15.31	2011-11-29 12:46:06
2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ced6a014594b-1.1			10.0.15.49	2011-11-29 12:07:24
2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ced6a014594b-1.2			10.0.15.49	2011-11-29 12:07:41
2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ced6a014594b-1.3			10.0.15.49	2011-11-29 12:07:47
2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ced6a014594b-1.4			10.0.15.49	2011-11-29 12:07:21
2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ced6a014594b-1.6			10.0.15.49	2011-11-29 12:07:35
2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ced6a014594b-1.7			10.0.15.49	2011-11-29 12:07:35

1 - 10 を表示しています (合計エントリ: 1,490 個) 表示 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 次 | 最後

接続テーブル

端末は、様々なタイプのプロトコルを使ってリモートサーバに接続できます。

接続テーブルでは、RDP、ICA、VDI、その他利用可能な接続を作成、管理、編集できます。

プロファイルテーブル

Echo ソフトウェアには、**プロファイル**を作成し、それを適用して個別の端末をリモート操作しながら効率よく設定管理できるという重要な機能があります。プロファイルにさまざまな設定を入れておき、ユーザが必要とするときにそれを個別端末に適用できます。**プロファイル**テーブルでは、必要に応じてプロファイルを作成、管理、編集できます。

ディスクイメージテーブル

ディスクイメージとは、さまざまな設定やプロファイルを1つの完全なパッケージにまとめるために作成するファイルのことです。**プロファイル**を作成したり**端末設定**を編集することは端末をカタマイズする方法の一部ですが、**ディスクイメージ**を使うと、複数のプロファイルや設定、およびオペレーティングシステムをパッケージとして単一リソースにまとめることができます。ディスクイメージを活用すると、管理プロセスが一段と簡素化されます。

端末設定テーブル

端末設定とは、端末のディスプレイ、サウンド、キーボード、マウス、パスワード構成を指します。管理者は Echo を使って1つの端末からこうした設定のクローンを作成し、Echo シンクライアント設定データベースに保存して他の端末に適用できます。



メモ: ディスプレイ、サウンド、キーボード、マウス、パスワード構成に関する詳細情報は、DeTOS、WES、WES7 に付属のガイドを参照してください。これらの設定の変更方法、MUI パックのインストール方法、言語の選択方法などに関して説明されています。

証明書テーブル

証明書を Echo 管理ソフトウェアに追加すると、証明書テーブルに表示されます。これらの証明書は、端末テーブルを使って端末まで下げることができます。



メモ: 証明書をこの方法で使用できるのは、DeTOS オペレーティングシステムを実行しているシンクライアントに限ります。

詳細ペーン

さらに、証明書をプロフィールやディスクイメージに組み入れることもできます。インベントリテーブルで何か項目を選択すると画面右側に詳細ペーンが表示されます。インベントリテーブルで何を選択したかによって異なりますが、このペーンから詳細情報を変更できます。利用可能なオプションについては、各セクションでもっと詳しく説明します。もっとも一般的なペーンは以下に示す、**[名前と詳細]**ペーンです。

The screenshot shows the Echo management interface. On the left, there is a table with columns for Name, Description, Location, IP Address, and Previous Contact. The selected row is highlighted in blue. On the right, a detailed view pane is open, showing the Name and Description fields with their respective values.

名前	説明	位置	IP アドレス	前回のコンタクト
SIDESWIPE			10.0.15.122	2011-11-29 12:44:23
00abbd3188c616108b56ed5c7233e085	John Smith's FX170	HR	10.0.15.31	2011-11-29 12:57:07
2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ce6a0145948-1.1			10.0.15.49	2011-11-29 12:07:24
2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ce6a0145948-1.2			10.0.15.49	2011-11-29 12:07:41
2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ce6a0145948-1.3			10.0.15.49	2011-11-29 12:07:47

The detailed view pane on the right shows the following information:

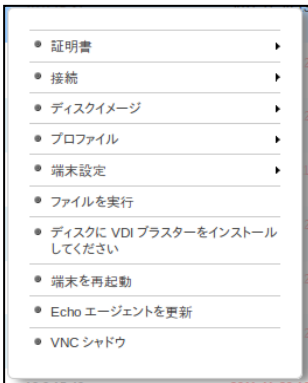
- 名前:** 00abbd3188c616108b56ed5c7233e085
- 説明:** John Smith's FX170
- 位置:** HR



メモ: 各種テーブルでは、複数のオブジェクトを選択できます。複数の項目を個別に選択するにはテーブル内で<Ctrl>キーを押しながら項目を左クリックします。2つの項目間のすべてを選択するには、テーブル内で<Shift>キーを押しながら2つ目の項目を左クリックします。

コンテキストメニュー

項その、クリックすると右を項目テーブルでハイライトされている**端末**とし**コンテキストメニュー**、なアクションが々様できる実行して対に目、されているコンテキストメニューは表示が矢印に横。されませ表示でコンテキストメニ。しませ示にさらにサブメニューがあることを下その、ユーはEcho
。するメインメニューです使用するために適用に端末を**変更**が管理者



検索

各インベントリテーブルの右上に表示される**検索**バーでは、そのテーブル内で指定した情報を検索できます。検索すると、各インベントリテーブルのフィールドすべてをスキャンするため、指定した基準に基づいて表示する項目を絞り込むことができます。共通の IP アドレスを持つ端末、モデルタイプが同じ端末、あるいは同じプロファイルを使う端末などを検索できます。例えば、管理者が DeTOS を実行する端末すべてをアップデートする必要がある場合、検索フィールドに「DeTOS」とタイプすると、インベントリテーブルにはそれら端末のみが表示されます。その結果、管理者は、管理する端末の表示を絞り込んでアップデートを実行できます。

[検索]フィールドに情報を入力すると、インベントリテーブルは自動的に更新され、検索条件に合った項目が表示されます。



メモ: 検索結果を特定のフィールドのみに絞り込むこともできます。例: 位置フィールドのみに絞って「lab」という言葉を検索するには、「location:lab」を使います。

端末管理

Echo エージェントのアップデート

Echo、のサービスで上デバイス端末、エージェントはEcho。します通信サーバとDell定プログラムを設定たなエージェント新、する提供を機能たな新、では、このセクションでは。にリリースします期的Echoしいエージェン新で端末した追加ってインベントリに使ソフトウェアを。します説明を手順トをアップデートする

最新の Echo エージェントのダウンロード

support.dell.comにアクセスして、OptiPlex FX130およびFX170シンクライアントと、Devon IT Echo Management Console Dell Editionソフトウェアとの通信に使う、最新のDevon IT Echoエージェントソフトウェアを見つけ、ダウンロードします。

端末で Echo エージェントをアップデート

- 1 From the **端末**テーブルから、アップデートが必要な端末を選択し、右クリックして**コンテキストメニュー**を表示します。
- 2 コンテキストメニューの**[Echo エージェントをアップデート]**を選択します。
- 3 右側の**[名前と詳細]**ペーンにこれからアップデートする端末名が表示されます。 **[ファイルを選択]** ボタンをクリックして、ローカルシステムにダウンロードした実行可能な新しい Echo エージェントのセットアップファイルへナビゲートします。

- 4 **[送信]**をクリックして変更を送信します。

送信 キャンセル

◆ Echo エージェントをアップグレード

次で Echo エージェントを更新しています:

- 00abbd3188c616108b56ed5c7233e085

Download from URL

File

/tmp/detos-agent-2011-11-1 Browse...

「Echo エージェントのリクエストを送信しました」というメッセージが表示されます。新しいエージェントが実際のデバイス上で自動インストールを開始します。これには 30～60 秒かかります。このインストールが完了すると、新しいエージェントは Echo サーバにハートビートを送り、その端末の**エージェントバージョン**列に新しいバージョン番号が表示されます。次の図は、エージェントバージョンの列を示します。

製造会社 ◆	エージェントのバージョン ◆
Dell	3.2.1.20111129.181912

カスタムアイコン

管理者は、個別接続用にカスタマイズしたアイコンを使うことができます。DeTOS ベースのオペレーティングシステムと Echo ソフトウェアを使い、管理者は自分の写真をウェブブラウザを通してアップロードできます。アップロードしたイメージはデスクトップアイコンとして DeTOS デスクトップ上で様々な接続に使用できます。このセクションでは、自分のイメージをデスクトップアイコンとしてローカルに使う方法を説明します。



メモ: 現時点でカスタムアイコンが使えるのは DeTOS 端末のみで、Windows ベースの端末では使用できません。

イメージのアップロード

- 1 [メンテナンス]タブで[アイコン]を選択します。
- 2 アイコンインベントリテーブルの上で[アイコンを追加]を選択します。
- 3 [名前と詳細]ページの[名前]フィールドに名前を入力します。これは、これからアップロードするイメージに Echo がつけるエイリアスです。この名前を後で別の接続に付けることもできます。

- 4 **【ファイルを選択】** ボタンをクリックし、ローカルマシンを検索してアップロードするイメージまでナビゲートします。イメージをハイライトして、**【開く】** を選択します。



The screenshot shows a web form with two main sections. The top section is titled '名前と詳細' (Name and Details) and contains a text input field labeled '名前' (Name). The bottom section is titled 'アイコンのアップロード' (Icon Upload) and contains a text input field labeled 'アイコン' (Icon) followed by a 'Browse...' button.

- 5 **【名前と詳細】** ペーン上部の **【追加】** ボタンをクリックします。「アイコンを追加しました」というメッセージが表示され、新たなアイコンが**【アイコン】** インベントリテーブルに表示されます。

デスクトップアイコンのカスタマイズ

イメージをEcho

デスクトップアイコンをカスタマイズするた、にアップロードするのはがあります必要する追加に接続アイコンを、に次。です手順の最初のナビゲーションバーの、そうするには、**【接続】**

。います従に手順の次、するには編集を接続の現在。します選択タブを

- 1 インベントリに追加した接続のテーブルから接続を選択します。
- 2 **【名前と詳細】** ペーンに、**【アイコン】** というドロップダウンメニューが表示されます。利用できるオプションのリストを参照するにはこれをクリックします。
- 3 ドロップダウンメニューからアイコンを選択します。アップロード時、管理者が付けたものと同じエイリアスがついているはずで
す。

- 4 カスタムイメージを選択後、ペーン上部の[更新]をクリックして変更を保存します。

更新 キャンセル

名前と詳細

名前
Firefox

ローカルディスプレイ名
Firefox

説明
00abbd3188c616108b56ed5c7233

プロトコル
Firefox

アイコン
none

- 5 **接続**テーブル内で、接続の左側、[アイコン]列に新しいアイコンが表示されます。接続に適用したすべてのカスタムアイコンがその列内に表示されます。

Echo クローニングの概要

Echo。できます作成のタイプのクローンを以下って使を

- **接続**—端末は、様々なタイプのプロトコルを使ってリモートサーバに接続できます。RDPプロトコルは、Microsoft Windows 端末サーバに接続するために使われます。ICAプロトコルは、Citrix サーバに接続するために使われます。VMware View クライアントが使う VDIプロトコルでは、VMware View サーバに接続できます。管理者は Echo ソフトウェアを使って1つの端末からこれら接続タイプのクローンを作成し、それを Echo 接続データベースに保存して他の端末に適用できます。
- **端末設定**—端末設定とは、端末のディスプレイ、サウンド、キーボード、マウス、パスワード構成を指します。管理者は Echo を使って1つの端末からこうした設定のクローンを作成し、Echo シンクライアント設定データベースに保存して他の端末に適用できます。
- **プロファイル**—プロファイルとは、**端末設定**と**接続**構成の双方から複数の選択を組み合わせ、ユーザのニーズに合ったオプションのパッケージにまとめる方法です。管理者は Echo を使って特定のプロファイルを、それらの設定の組み合わせが必要な端末に適用できます。
- **ディスクイメージ**—Echo が提供する4つ目のクローンのオプションは、端末のディスクイメージをそっくり複製する機能です。ディスクイメージには、オペレーティングシステム自体も含み、端末の DOM に保管されているすべてが含まれます。これには、他の場所に保存されている BIOS 設定は含まれません。ディスクイメージのクローンは、Echo ディスクイメージデータベース内の名前によってインベントリされ、管理されますが、実際には LAN 上の NFS シェア、CFIS、または FTP サーバのいずれかに保存されます。

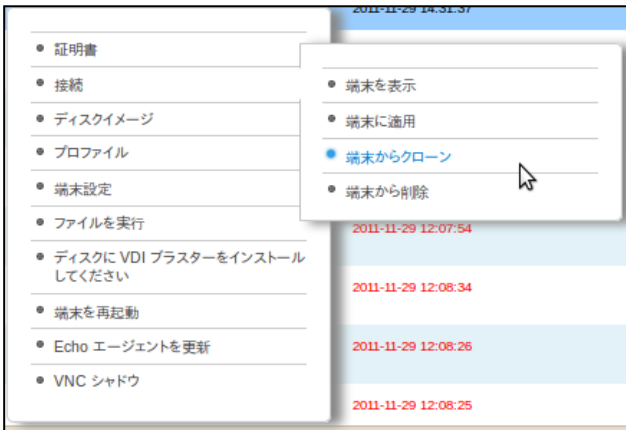
接続のクローニング

Echo では、管理者がシンクライアントから個別接続のクローンを作成してそれを Echo データベースに保存できます。管理者は VMware View や Citrix などの接続を端末で作成し、プロファイルを介して他の端末すべてに簡単に適用できます。どの接続でもクローンを作成可能ですが、最も一般的なものを以下に挙げます：

- **RDP**—Microsoft ターミナルサーバに接続するために使われる、1つまたは複数の **.rdp** 構成ファイル。
- **ICA**—Citrix サーバに接続するために使われる、1つまたは複数の **.ica** 構成ファイル。
- **VMware**—VMware View クライアントの接続設定と構成。
- **Firefox**—ローカルのウェブブラウザとその開始 URL。

接続をクローンする方法

- 1 インベントリに追加した端末のテーブルから、接続をクローンしたい端末を選び、右クリックして **コンテキストメニュー** を表示します。
- 2 **コンテキストメニュー** から、**[接続]→[端末からクローン]** の順にクリックします。



- 3 右側の詳細ペーンに、この端末からクローンを作成できる接続が表示されます。
- 4 **[接続]**の下で、一覧表示される接続のどれかを選択します。複数の接続を選択するには、ドロップダウンメニューから別の接続を選択すると、それがリストに追加されます。
- 5 **[送信]** ボタンをクリックします。クローンが完了すると成功を示すメッセージが表示されます。
- 6 **[接続]** タブで、クローンした接続エントリがインベントリテーブルに表示されていることを確認します。

端末に接続を適用

- 1 インベントリに追加された**端末**テーブルから端末を左クリックし、次に右クリックして**コンテキストメニュー**を表示します。
- 2 コンテキストメニューから、**[接続]→[端末に適用]**の順にクリックします。
- 3 **[接続を選択]** ペーンで、ドロップダウンメニューから、適用する接続を選択します。複数の接続を選択するには、ドロップダウンメニューから別の接続を選択すると、それがリストに追加されます。

送信 キャンセル

◆ 接続を適用

次に接続を適用します:

- 00abbd3188c616108b56ed5c7233e085

◆ 接続を選択

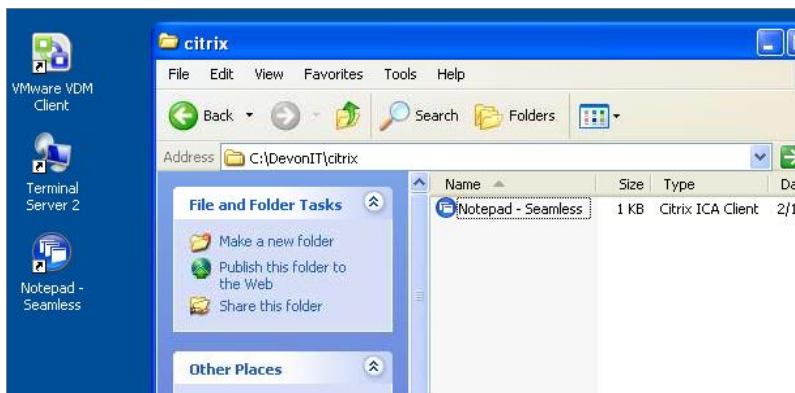
接続:

接続を選択...

- 4 [送信] ボタンをクリックします。接続が適用される成功を示すメッセージが表示されます。



端末に接続を適用すると、実際の ICA と RDP ファイルは、それぞれ、**C:\Devon IT\Citrix** と **C:\Devon IT\rDesktop** に保存されます。これらファイルへのショートカットは、ユーザと管理者のデスクトップ上に自動的に作成されます。エンドユーザはそれらのショートカットをダブルクリックするだけで接続を開始できます。





：メモRDPやICA、ベ比に接続WindowsがVMWare

View。いがあります違にはいくつか方法する処理を接続クライアントVMware

Viewは接続クライアント1たり当ユーザ1。できません使用つかVMWare

View、は構成設定の接続クライアントRDPやICA

さ保存ユーザアカウントのレジストリハイブに、のようにフラットファイルでなく
これは。れますVMware

View、であり特徴クライアントプログラムのEcho

。するものではありません意味を限界アプライアンスの管理仮想シン

端末設定のクローニング

Echo では、次の端末設定のクローンを作成できます。

- **ディスプレイ**—主なディスプレイデバイスの画面の解像度、色深度、更新間隔。
- **インプット**—キーボードとマウスの設定。
- **パスワード**—DeTOS コントロールパネルのパスワード構成設定（DeTOS のみ）。
- **サウンド**—マスターボリュームや消音コントロールの設定。
- **時間**—時間帯の設定。
- **エージェントのパスワード**—端末の DeTOS コントロールパネルにアクセスするために設定されたパスワード。
- **固定**—端末のために選択した固定オプションの設定。



メモ：エージェントのパスワードと**固定**設定をクローンできるのは DeTOS を実行する端末のみで、WES ユニットには適用されません。

端末設定のクローニング

- 1 端末インベントリテーブルで、端末を左クリックして選択し、次に右クリックして**コンテキストメニューを表示**します。**[端末設定]→[端末からクローン]**の順にクリックします。
- 2 右側の詳細ペーンに、2つのセクションから構成されるフォームが表示されます。**[名前と詳細]**および**[クローンするモジュールを選択]**の2つです。
 - **名前**—このクローン名を入力します。今後、Echoがこれらの設定を参照する際に使う名前です。
 - **説明**—このクローンの簡単な説明を入力します。
 - **端末設定モジュール**—クローンする設定のタイプを選択します。ドロップダウンメニューの項目はいくつでも選択でき、選択したモジュールが下のリストに表示されます。

送信 キャンセル

◆ 端末設定をクローン

次から端末設定のクローンを作成します:
00abbd3188c616108b56ed5c7233e085

利用可能なシンクライアント設定モジュール:7

◆ 名前と詳細

Name
Mouse Setting

Description
Button Swap

◆ クローンするモジュールを選択

端末設定モジュール

Input

- 3 **[送信]** ボタンをクリックします。数秒後、成功を示すメッセージが表示されます。
- 4 左側の**[端末設定]** タブを開きます。今クローンしたばかりの設定がインベントリテーブルに表示されるはずです。

設定を端末に適用

- 1 端末インベントリテーブルで、端末を左クリックして選択し、次に右クリックして**コンテキストメニュー**を表示します。**[端末設定]**→**[端末に適用]**の順にクリックします。
- 2 **[端末設定を選択]**ページの**【端末設定】**ドロップダウンリストから、適用したい保存済みの設定クローンを選択します。
- 3 設定を適用後、端末を再起動したい場合は、**【適用後に再起動】**のオプションを選択することもできます。新しい設定にネットワークの変更が含まれる場合は、このチェックボックスをオンにした方がよいかもしれません。再起動しない場合は、このボックスはオフのままにします。
- 4 モジュールリストの中から、適用する設定モジュールを選択します。ドロップダウンメニューの項目はいくつでも選択でき、選択したモジュールが下のリストに表示されます。モジュールが1つしかなくても、少なくとも1つ選択する必要があります。
- 5 **【送信】** ボタンをクリックして端末に設定を適用します。適用後、成功を示すメッセージが表示されます。

The screenshot shows a dialog box with three main sections:

- 送信 (Send)** and **キャンセル (Cancel)** buttons at the top.
- ◆ 端末設定を適用 (Apply Device Settings)** section: "端末設定を次に適用します:" (Apply device settings next time) with a list item "● 00abbd3188c616108b56ed5c7233e085".
- ◆ 端末設定を選択 (Select Device Settings)** section: "端末設定:" (Device settings) with a dropdown menu showing "FX170 Settings". Below it is "適用後に再起動:" (Restart after application) with an unchecked checkbox.
- ◆ モジュールを選択 (Select Module)** section: A dropdown menu showing "モジュールを選択..." (Select module...).

プロフィール

Echo、を設定と端末接続、うと使を機能のプロフィール1

う使プロフィールを。てることが出来ます当り割に端末の複数または台
え例。です便利に場合する適用にアップデートを端末くの多に一度、と
接。があります場合な必要が詳細変更の接続われる使に端末の複数、ば
されているのであれ適用に既に端末むプロフィールがそれら含を続詳細
、ばEcho

うよ使を設定しい新これら、をアップデートするだけで接続詳細でその
の次。されませ調整に自動的が端末、う2、つのセクションではEcho
。しませ説明を手順な必要に適用と作成プロフィールの

プロフィールの作成

- 1 **[プロフィール]**タブを開き、プロフィールのインベントリテーブルを表示します。
- 2 インベントリテーブル上部の**[プロフィールを追加]**を左クリックします。右側に5つの詳細ペーンが開きます。
 - **名前**—このプロフィール名を入力します。
 - **説明**—このプロフィールの説明です。
 - **モード**—プロフィールの適用モードを以下から選びます。
 - デフォルトのプロフィール—Echo サーバ上のすべての端末に適用
 - 端末詳細—モデル名、名前、IP アドレス、オペレーティングシステムなど、特定の詳細を指定して端末に適用このモードはデフォルトのプロフィールよりも優先されます。**[端末詳細]**ペーンが開きます。
 - 端末指定—端末名をマニュアルで選択このモードは、デフォルトと端末詳細のプロフィールよりも優先されます。**[端末]**ペーンが開きます。
 - **端末詳細**—利用可能なフィールドで、プロフィールの適用をどの詳細によって絞り込むかを指定します。
 - **端末**—**[モード]**として**[端末指定]**を選択すると、Echo 管理者がこのボックスで端末を選択できます。

- **接続**—このリストから1つまたは複数のエントリを選択し、クローンした接続をこのプロファイルに割り当てます。何も選択しなくても構いません。
 - **端末設定**—このリストから1つまたは複数のエントリを選択し、クローンした設定をこのプロファイルに割り当てます。何も選択しなくても構いません。
 - **証明書**—（証明書のダウンロードページをスキップするため）Firefoxの証明書をMozilla Firefoxの設定からエクスポートしてそれをプロファイルにインポートし、警告が出ないようにします。Firefoxで、
[オプション] → [オプション] → [詳細] → [暗号化] → [証明書を表示] → [認証局証明書] の順に選択します。
 - **ディスクイメージ**: ドロップダウンメニューで、Echo管理者がプロファイルにイメージを追加すると、Echoはここでリストするイメージが既にある場合は、起動するたび端末のイメージを復元します。
- 3 [送信] ボタンをクリックしてこのプロファイルを作成します。完了すると成功を示すメッセージが表示されます。
- 4 **プロファイル**のインベントリテーブルに新しいプロファイルが表示されます。

The screenshot shows a configuration window with two main sections: '名前と詳細' (Name and Details) and '端末' (Device). The '名前と詳細' section contains three input fields: '名前' (Name) with the value 'FX170 Profile', '説明' (Description) with the value 'Input Settings & Connections', and 'モード' (Mode) with a dropdown menu showing '端末を選択' (Select device). The '端末' section contains a dropdown menu showing '端末を選択' (Select device) and a list of device identifiers, with the first one '2ed11075-2e7a-48b2-b269-2ce6a0145948-1-1' selected and highlighted in blue.

プロファイルの適用

次回、わると終し作成ってプロファイルを従に説明のセクションの上述、**[モード]**

適用に自動的に設定と接続けた関連付、際する再起動を端末まれる含にうこ従に手順の次、は場合したい適用をすぐに変更、ただし。されます。することができます適用とでプロファイルをマニュアルで

- 1 インベントリに追加した**端末**テーブルで、端末を左クリックして選択し、次に右クリックして**コンテキストメニュー**を開き、**[プロファイル] | [端末に適用]**の順にクリックします。
- 2 プロファイルのドロップダウンリストから、適用するプロファイルを選択します。
- 3 **[送信]** ボタンをクリックします。完了すると成功を示すメッセージが表示されます。
- 4 端末のデスクトップには、接続のショートカットが自動作成されます。エンドユーザはそれらのアイコンをダブルクリックするだけで接続を開始できます。

The screenshot shows a dialog box with two main sections. At the top, there are two buttons: '送信' (Send) and 'キャンセル' (Cancel). The first section is titled '◆ プロファイルを適用' (Apply Profile) and contains the text 'プロファイルを次に適用します:' (Apply profile to the next). Below this, a profile ID '● 00abbd3188c616108b56ed5c7233e085' is listed, followed by '利用可能なプロファイル:1' (Available profiles: 1). The second section is titled '◆ プロファイルを選択' (Select Profile) and contains the text 'プロファイル:' (Profile:). Below this is a dropdown menu with the text 'プロファイルを選択してください...' (Please select a profile...) and a downward arrow button.

ディスクイメージのクローニング

Echo、ではFTP、CIFS、NFS

のディスクイメージのクローニング全体、って使プロトコルのいずれかを
。できます作成を



メモ: WES2009 または WES7 端末からディスクイメージのクローニングを作成するには、FBWF
を無効にする必要があります。その方法は、WES2009 または WES7 の管理ガイドをご覧ください。

ディスクイメージ全体のクローニング

- 1 端末インベントリテーブルで、端末を左クリックして選択し、次に右クリックしてコンテキストメニューを表示します。[ディスクイメージ] | [端末からクローニング] の順にクリックします。
- 2 右側の詳細ページに、7つのフィールドを含む [ディスクイメージをクローニング] ページが表示されます。
 - **名前**—このディスクイメージ名を入力します。
 - **説明**—このディスクイメージの簡単な説明を入力します。
 - **プロトコル**: ドロップダウンリストから、FTP、CIFS、FTP のいずれかを選びます。
 - **FTP-内部 FTP サーバ** を使って Echo シン管理ディスクイメージの保存・取り出しを行う場合はこのオプションを選択します。
 - **CIFS-LAN** (ローカルエリアネットワーク) ファイル共有 CIFS サーバを使って Echo のディスクイメージの保存・取り出しを行う場合はこのオプションを選択します。
 - **NFS-Linux/Unix** サーバ上の NFS 共有を使って Echo のディスクイメージの保存・取り出しを行う場合はこのオプションを選択します。
 - **イメージの保存場所**—ディスクイメージの保存に使うプロトコルと保存場所を入力します。



メモ: ホスト名または IP アドレスが使えます。例:

ftp://myServerName/path/to/my/image/myImageName.img や
nfs://192.168.1.123/path/to/my/image/myXpClone.img.上

の例では、**.img**という拡張子を使用していますが、どのような拡張子でも使えます。また、拡張子を使わなくても構いません。また、保存場所のURLには必ずプロトコルを最初に入れてください。例：（**ftp://** または **nfs:/**）など。

- **イメージ検証**—クローニング完了後、md5 checksum を実行する場合はこのボックスにチェックを入れます。このチェックボックスを選ぶと、クローニングにかかる時間が長くなりますのでご注意ください。
 - **ユーザ名**—上述の [**イメージの保存場所**] フィールドで指定したイメージのレポジトリに読み書き権限をもったアカウントアクセスが必要であれば、ユーザ名を入力します。
 - **パスワード**—必要であれば、上述のユーザ名に必要なパスワードを入力します。
- 3 **【送信】** ボタンをクリックしてクローニングを開始します。このプロセスは 20～40 分かかりますが、端末のフラッシュディスクのサイズとネットワークトラフィックによって時間は異なります。

◆ ディスクイメージをクローン

次からディスクイメージのクローンを作成します:00abbd3188c616108b56ed5c7233e085

名前
FX170 Image

説明
A Test Image

プロトコル
ファイル転送プロトコル (FTP)

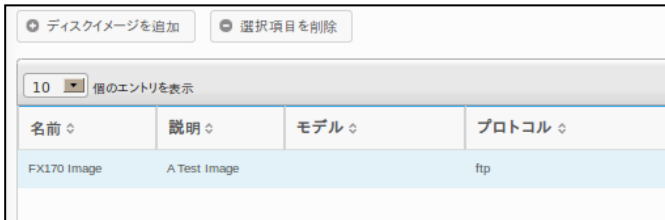
イメージの保存場所
ftp://10.0.5.11/images/test.img

イメージを検証

ユーザ名

パスワード

- 4 完了すると、新しくクローンされたディスクイメージがディスクイメージタブのインベントリテーブルに表示されます。



ディスクイメージの端末への適用



メモ: ディスクイメージを端末に適用する際は、必ずその特定のモデルに対して正しいイメージを使用してください。さもないと、端末が起動不能になる恐れがあります。端末が起動不能となった場合は、support.dell.com/support でイメージを復元する方法を参照してください。

- 1 **端末**インベントリテーブルで、端末を左クリックして選択し、次に右クリックして**コンテキストメニュー**を表示します。**[ディスクイメージ]→[端末に適用]**の順にクリックします。一度に複数の端末でイメージを復元する際は、**Ctrl** キーを押しながら複数の端末を選択するか、**Shift** キーを押しながら端末の範囲を選択します。
- 2 **[ディスクイメージを選択]**ページの**[ディスクイメージ名]**のドロップダウンリストから、適用するイメージファイルを選択します。



メモ: ディスクイメージを適用する際は、検索機能を使用することを推奨します。例えば、「FX170 DeTOS」を検索すると、**DeTOS** を実行する **FX170** 端末のみが表示されます。検索機能を使うことで、管理者は、間違ったタイプの端末や別の **OS** を実行している端末にうっかりディスクイメージを適用することを防ぐことができます。

- 3 **【送信】** ボタンをクリックしてイメージ復元を開始します。



◆ ディスクイメージを適用

ディスクイメージを次に適用します:

- 00abbd3188c616108b56ed5c7233e085

利用可能なイメージファイル:1

◆ ディスクイメージを選択

ディスクイメージ名:

ディスクイメージを選択してください... ▼

イメージを検証:

端末が再起動し、フラッシュメディアに選択したイメージを復元し始めます。このイメージ復元プロセスは 20~40 分かかりますが、イメージのサイズとネットワークトラフィックによって時間は異なります。その期間、Echo サーバにはハートビートを送るエージェントはないため、**【前回のコンタクト】** フィールドのタイムスタンプは変化しません。イメージ復元が終わると、端末が最後の再起動を行い、エージェントがサーバにハートビートを送るため、**【前回のコンタクト】** フィールドが更新されます。**【前回のコンタクト】** フィールドに現在時刻が表示されると、イメージ復元が完了したことになります。

既成のディスクイメージ

Devon IT Echo Management Console Dell Editionのインベントリに新しいOSイメージを追加できます。

support.dell.comの最新からDeTOS

、オペレーティングシステムのイメージをダウンロードしOptiPlex FX130とFX170。できます復元シンクライアントでイメージを



メモ: Windows Embedded Standard (WES) オペレーティングシステムのイメージをダウンロードして復元できるオプションがあるのは **OptiPlex FX170** のみです。そのイメージは **support.dell.com** からダウンロードできます。



メモ: 必ず正しいイメージを **support.dell.com** からダウンロードしてください。ディスクイメージをアップデートする際は、オペレーティングシステムと「アップデート」のパーティションの両方を含むディスクイメージ全部でなく、オペレーティングシステムの部分のみを含む部分的なディスクイメージを使う必要があります。これら部分的なディスクイメージは、ファイル名に「**part1**」と入っていることで識別できます。

ディスクイメージの追加

- 1 ディスクイメージを **support.dell.com** からダウンロードしたら、そのイメージを FTP サーバまたは NFS 共有ディレクトリにコピーします。
- 2 **[ディスクイメージ]** タブから、インベントリテーブル上部の **[ディスクイメージを追加]** ボタンを左クリックします。
- 3 右側の詳細ペーンにディスクイメージを追加するための様々なフィールドが表示されます。
 - **名前**—このディスクイメージ名を入力します。
 - **説明**—このディスクイメージの簡単な説明を入力します。
 - **プロトコル**: ドロップダウンリストからサーバを選択します。

- **FTP:** 内部 FTP サーバを使って Echo のディスクイメージの保存・取り出しを行う場合はこのオプションを選択します。
 - **CIFS:** LAN (ローカルエリアネットワーク) ファイル共有 CIFS サーバを使って Echo のディスクイメージの保存・取り出しを行う場合はこのオプションを選択します。
 - **NFS:** Linux/Unix サーバ上で NFS 共有が使える場合はこのオプションを選択します。
- **イメージの保存場所**—ディスクイメージが保存されている場所を入力します。



メモ: ホスト名または IP アドレスが使えます。例:

`ftp://myServerName/path/to/my/image/<name of dell disk image>`や `nfs://192.168.1.123/path/to/my/image/<name of dell disk image>`など

- **ユーザ名**—上述の **【イメージの保存場所】** フィールドで指定したイメージのレポジトリに読み書き権限をもったアカウントアクセスが必要であれば、ユーザ名を入力します。
 - **パスワード**—必要であれば、上述のユーザ名に必要なパスワードを入力します。
 - **構成ファイル**—**【インポートを切り替え】** がオンの場合は、**【参照】** をクリックしてローカルマシンの構成ファイルを選択します。**【インポートを切り替え】** がオフの場合は以下のフィールドに入力します。
 - **モデル**—このイメージに関連付けられたモデル名*。
 - **オペレーティングシステム**—ドロップダウンメニューからオペレーティングシステムを選択します。
- 4 **【送信】** ボタンをクリックしてこのディスクイメージを追加します。

- 5 成功を示すメッセージが表示されます。[ディスクイメージ] タブに、追加したディスクイメージが入ったインベントリテーブルが表示されるはずですが、ディスクイメージを端末に適用する方法については、「ディスクイメージのシンクライアントへの適用」を参照してください。

◆ 名前と詳細

名前
FX130 image

説明
A Second image

プロトコル
ファイル転送プロトコル (FTP)

イメージの保存場所
ftp://10.0.5.11/images/test.img

メンテナンス

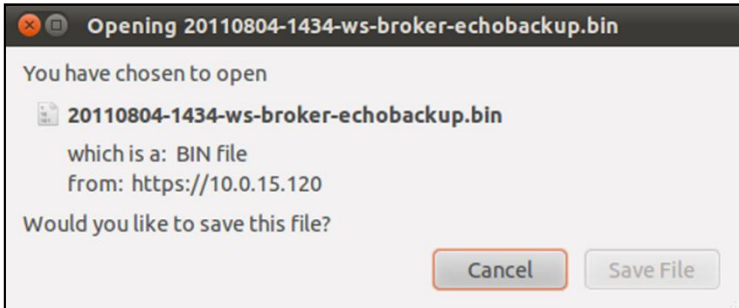
サーバのバックアップ

タブからバックアップでき【メンテナンス】のサーバをメインの使用ご
ホッ」これは、されるため作成にバックアップが実行中システム。まず
、バックアップのため。ばれます呼と「トコピーEcho
うに行ホットコピーを。はありません必要する保留または停止サーバを
。います従に手順の次、は

- 1 【メンテナンス】タブで【サーバ構成を保存/リストア】サブセク
ションを開きます。
- 2 【サーバ構成を保存】をクリックします。
- 3 このオプションを選択すると、ウェブインターフェースの右側の
パネルに【ホットコピーを保存】ペーン（下図参照）が表示され、
いくつかのチェックボックスオプションとともに、【OK】と【キ
ャンセル】ボタンが表示されます。【項目】、【ログ】、【アプ
ライアンス】の中から、構成ファイルに保存したいものすべてに
チェックマークを入れ、【保存】をクリックしてバックアッププ
ロセスを始めます。



- 4 ホットコピーをするとバイナリ（.BIN）のバックアップファイルが作成され、それがローカルマシンにダウンロードされます。
【ファイルの保存】をクリックし、そのファイルをどこに保存したか記録しておいてください。将来復元する際、その場所が必要になります。



サーバのリストア

、すると実行リストアをEcho
ホットコピー、され削除やデータが構成情報の既存のすべての上サーバ
行リストアを。さされます上書によって情報した作成のバックアップで
。います従に手順の次、うには

- 1 【メンテナンス】タブで【サーバ構成を保存/リストア】サブセクションを開きます。
- 2 【サーバ構成をリストア】をクリックします。
- 3 このオプションを選択すると、ウェブインターフェース右側に【ホットコピーをリストア】ページが表示されます。【ファイルを選択】ボタンの下に【リストアする項目】、【リストアするログ】、【リストアするアプライアンス設定】カテゴリとそれぞれのオプションが表示されます。

- 4 **【ファイルを選択】** ボタンをクリックして、ローカルマシン上にあるホットコピーのバックアップファイルを検索します。ホットコピーの**.BIN** ファイルをダブルクリックすると、そのファイルパスがテキストボックスに表示されます。
- 5 この時点で、構成ファイルをリストアする管理者は、どの設定（カテゴリ）をリストアし、どの設定を無視するかを指定できます。リストア対象として選択しなかった設定は現行システム設定にそのまま残ります。
- 6 バックアップファイルへのパスが入力されたら、**【リストア】** ボタンをクリックしてリストアを開始します。リストアが完了すると、情報ボックスに「**完了**」というメッセージが表示されます。



アプライアンスのアップグレード

Echo

手の次、は際しいバージョンにアップグレードする新アプライアンスを。します推奨を順

- 1 **バックアップ**—アップグレードをする前に、ホットコピーを使ってサーバの既存の構成とデータをバックアップします。この手順の詳細は、「サーバのバックアップ」セクションを参照してください。
- 2 **アップグレード**—
 - a. Echo アプライアンスサーバをシャットダウンします（**[メインメニュー]** のオプション 9、**[マシンを停止]** を選択）。
 - b. **support.dell.com** にアクセスし、最新の Devon IT Echo Management Console Dell Edition アプライアンスをダウンロードします。
 - c. コンテンツを抽出し、VMware Server で **.ova** ファイルを指定します。
 - d. 仮想アプライアンスを再起動します。
- 3 **リストア**—アップグレードが完了すると、新しいアプライアンスがオンラインとなり、Echo サーバをリストアします。リストア手順の詳細は、「サーバのリストア」セクションを参照してください。

サポートが必要なときは

Dell へのお問い合わせ

米国内のお客様は、800-WWW-DELL (800-999-3355)までお電話ください。

Dellでは、オンラインおよび電話ベースのサポートとサービスのオプションをいくつか提供しております。ご利用いただけるサービスは国と製品によって異なり、一部のサービスはお住まいの地域でご利用にできない場合もあります。セールス、テクニカルサポート、サービスに関するDellへのお問い合わせ方法:

- 1 **support.dell.com** へのアクセスします。



メモ: インターネット接続がご利用にできない場合は、ご購入時のインボイス、納品書、Dellの製品カタログにお問い合わせ先情報が記載されています。

- 2 ページ一番下の国/地域をクリックします。国/地域の全リストを参照するには **【すべて】** をクリックします。
- 3 **【サポート】** メニューから **【全てのサポートオプション】** をクリックします。
- 4 必要に応じてサービスやサポートのリンクを選択します。
- 5 お客様にとって便利な Dell へのお問い合わせ方法をお選びください。